

主体的に学習に取り組む態度を育てる社会科授業開発 ～ICTを活用した指導と評価の一体化～

村上市立瀬波小学校

貝田 雄飛（平成25年度）

主張

平成29年度に学習指導要領が改訂され、これまでの「関心・意欲・態度」という評価から「主体的に学習に取り組む態度」に転換された。しかしながら、自身の指導や評価の方法を振り返ると、「挙手の回数や授業態度」といった性格や行動面の評価が行われることも少なくなかった。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識・技能」「思考・判断・表現」といった認識内容とともに育てる必要がある。そのため、子どもの自発的な思いだけでは、「主体的な学習に取り組む態度」を育てることは難しいと考える。教師がねらいをもち、児童の「主体的に学習に取り組む態度」を育てることで、「何ができるようになるか」といった学習評価の充実に繋げることができると考え、本研究を実施した。

1 主題設定の理由

新学習指導要領は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、児童の「粘り強い取り組みを行おうとする側面」や「自らの学びを調整しようとする側面」を捉えることと明示している。しかしながら、これまでの自身の授業を振り返ると、これらを判断する基準が弱く、妥当性の高い評価をしていたとは言い難い。学習評価とは、①「児童の学習改善につながっていくもの」②「教師の指導改善につながるもの」③「これまでの慣行としておこなわれてきたものでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」のように授業改善と結びついたものである。つまり、教師の働きかけの改善は、児童の学習改善となる。評価基準を再度見直して設定し、児童の「主体的に学習に取り組む態度」を高めていくことが必要であると判断した。

これらのことから、本研究では、「主体的に学習に取り組む態度」の「評価場面」（児童の姿）を焦点化することで、児童の主体的に学習に取り組む態度が高まり、「何ができるようになるか」といった学習評価の充実に繋げることができるか検証する。

2 研究方法と内容

(1) 研究方法

・6年生社会科『室町文化と力をつける人々』 令和4年度 村上市立瀬波小学校6年1組 21名

【抽出児童】

A児：社会科は好きかというアンケートに対して、「好きな教科」としている。しかし、歴史については、暗記教科という意識が強く、苦手意識を示す。また、「問いをもつ」ことや「問いをもって解決する」といった知識を関連付けることに苦手意識を示している。

B児：社会科は好きかというアンケートに対して、「苦手」としている。情報が多くなり、整理出来なくなると、自分の考えを表出するに至らないことが多い。

(2) 研究の内容

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、児童の主体的に学習に取り組む態度が最も表出されると考える以下の3つの場面で行う。

- ① 既習知識を活用し、学習課題への仮説を立てる場面
- ② 対話により習得した内容をもとに、学習課題への仮説を立てる場面
- ③ 学習課題解決後に、「新たな問い」を立てる場面

① 対話により習得した内容とともに、学習課題への仮説を立てる

「会話」は、個人の中で生まれた疑問を話し合うものと定義する。（個々に違うものであることから、深化させることが難しい）一方で、「対話」は、同じ問いをもとに解決に向けて話し合う姿と定義する。自分と他者の考えが比較され、共通点や相違点が検証され、考えの更新や深化が可能であると考え。（米田豊）予想を仮説へと高める場面では、自己や他者が対話して、学習課題を解決しようとするのが重要である。

評価	A	B	C
	対話の中で、自分の考えが「広がる」「強化される」きっかけとなった発言を示している。また、それらの発言を受け、自分の考えがどのように変化したか記述している。	対話の中で、自分の考えが「広がる」「強化される」きっかけとなった発言を示している。	A, Bの基準を満たす内容を記述していない。

② 既習知識を活用し、学習課題への仮説を立てる

直感的に思考を働かせて自由な発想を展開する場面は、子どもの主体性が顕著に表出する。しかし、「当て推

量」の考えだけでは妥当性の低い予想の出し合いとなり、子どもの思考は深化しない。また、「当て推量」の考えを多く出せば、評価が高くなるとも言いがたい。(岩田一彦)ここでは、学習課題の解を既習知識や対話により獲得した内容を活用し、それらを根拠として示すことを「仮説を立てる」とする。

評価	A	B	C
	前時までに習得した知識を活用して、複数仮説を立てることができる。	前時までに習得した知識を活用して、仮説を立てることができる。	当て推量の予想しか立てることができない。または、予想を立てることができない。

③ 学習課題解決後に、「新たな問い」を立てる

「問い」を立てるといふ行為は、児童が社会的事象に関心をもっているとする判断基準の一つになると考える。本研究では、「疑問」と「問い」を次のように区分する。「疑問」は、個人の中で生まれた違和感や不思議感で、解決の必要性が高いものから低いものまでばらつきがあるものと定義する。一方で、「問い」は社会的事象に対して抱いた違和感を学級全体で共通理解し、解決しようと意欲をもつものと定義する(米田豊)。「問い」を立てる場面は、単元内の振り返り記述と単元終了後の単元を貫く課題について答える場面の両方を見とるものとする。

評価	A	B	C
	「新たな問い」が、「新たな社会事象への応用」「深まった問いの発見、探求」「価値分析・未来予測」に当てはまり、単元の学習で習得した知識をもとに問いの理由付けができています。	「新たな問い」が、「新たな社会事象への応用」「深まった問いの発見、探求」「価値分析・未来予測」に当てはまっている。	当て推量の予想しか立てることができない。または、予想を立てることができない。

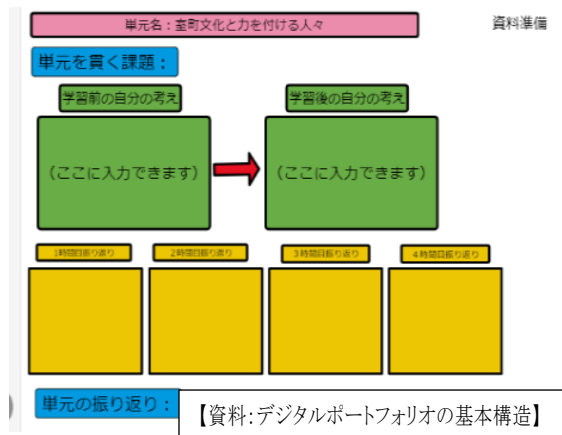
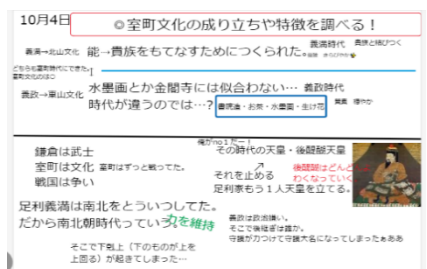
児童の発話や Google 提供アプリ「まなびポケット・スクールタクト」で作成したデジタルポートフォリオを用いて、これら3つの場面を見とり検証した。

本研究では、特に ICT の活用を力点を置いた。ICT を活用することで、児童の振り返り等を「可視化」「共有」「蓄積」することが容易になる。他者の考えを自由に参照し、自分の考えを「広める」「強化する」ことに適しており、個人の学習活動の幅が広がると考えた。

「単元前後の考えの変容が見とりやすい」「単元を貫く学習課題を意識しやすい」「毎時間の振り返りが見やすい」ことからデジタルポートフォリオは、左図のように作成した。なお、このポートフォリオは、「共同閲覧モード」に設定し、児童が相互に見合えるようにした。

振り返りは、全児童がこの形式記載することとした。

また、児童の学習ノートについては、「紙ノート」と「デジタルノート」を児童が選択出来るように働きかけを行った。学級21人中、14人が「デジタルノート」7人が「紙ノート」を活用していた。「デジタルノート」は、児童が自分に必要な資料を添付したり、参照したサイトのURLを添付したりして、事後の振り返りにも活用できるようにした。



【資料:デジタルノートの活用例】

3 研究の実際 6年生社会科『室町文化と力をつける人々』

本単元の学習計画は単元2時間目に児童と一緒に作成し、実践を行った。単元の学習計画は以下のとおりである。

1時間目	2時間目	3時間目	4・5時間目	6時間目
室町時代とそれ以前の建造物や平安時代、鎌倉時代の文化と比較することをとおして、新たな文化が生まれたことについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	水墨画や茶の湯、生け花などを調べて、室町時代の文化の特徴や現在まで受け継がれていることを捉える。	能や狂言について調べ、室町時代に生まれた文化と今日の暮らしや文化とのつながりに関心をもてるようにする。	水墨画や茶の湯、能についてそれぞれ体験する学習をとおして、これらの文化が庶民に浸透し、現在まで大切にされてきたことを捉える。	産業の発展に着目することで、庶民が力を付け、文化の発展を担ったことを捉える。

単元内の学習活動において、抽出児童の変容が特に見られた場面について記述する。

① 対話により習得した内容をもとに、学習課題への仮説を立てる場面

6年生社会科『室町文化と力をつける人々』(1時間目)

前単元の「大陸に学んだ国づくり」や「武士の政治がはじまる」から時代相互を「比較」することをとおして、共通点や相違点を発見し、新たな時代の特徴を探る学習方法を獲得している。単元の1時間目は、「平安貴族の屋敷」「武家屋敷」「書院造の間(銀閣外観)」を比較して、文化の違いを発見する活動を行った。A児の班の「対話」と

「対話」によりA児の思考がどのように変容したか分析する。

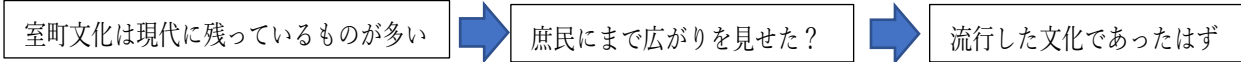
他：畳や障子など、日本風の作りだね。
 他：お茶が飲みたくなる。
 A：おじいちゃんの家のように似ている。自分の家はアパートだから違うけど。
 他：サザエさんの波平さんの部屋の作りには似ていない？
 A：本当だ！後ろの棚も似ている。
 他：室町時代の建築様式は、現代まで残っているということじゃない？

【資料:単元1時間目A児の所属する班の話し合い】

今日は室町文化について学びました。友達が、「これまでの時代で文化の話になると庶民が出ないから、今回は登場するかな？」と言っていました。残念ながら、今日の学習では出てきませんでした。銀閣や金閣は、今まで聞いたことがあったけれど、平安時代の建物と違って面白かったです。
室町文化（茶の湯とか）が今にも伝わっているため、①とても流行した文化だと推測しました。

【資料:単元1時間目A児の振り返り】

【A児の仮説までの思考】・・・平安時代の貴族の文化と比較して



A児の班は、書院造の間や銀閣の様子から「日本風」のものが多いことを共通の認識として「対話」を進めた。その途中、A児の発言をきっかけに、現代の家の様式と比較し始めた。平安貴族の屋敷と違い、書院造りの間は現代の家に似ていることから「現代まで残っているものが多い」という新たな考えをもった。

A児は、班での対話から「室町文化が現代にまで残る文化」と認識した。また、「貴族中心の平安文化よりも広がりを見せているのは、庶民にまで浸透したからではないか」という授業中の友達の発言を受けて、①のように「現代に残るには、流行しなければいけない」という考えをもち、「室町文化（茶の湯とか）が今にも伝わっているため、とても流行した文化」と仮説を立てた。班での対話から、学習課題への仮説を立てた姿と判断し、A評価とした。

② 既習知識を活用し、学習課題への仮説を立てる場面

6年生社会科『室町文化と力をつける人々』（2時間目）

室町文化の主だったものを調べた後に、前単元までの時代や現代の生活と「比較」して、「問い」を書き出す活動を行った。

A児は、『室町文化は、今でもやっている人が多い。瀬波小学校でもクラブ活動に茶道がある。他の時代と比較して、なぜ、私たちの生活に残っているものが多いのだろうか?』とノートに記述した。学級全体の学習活動は以下の表のとおりである。

児童が調べた室町文化	見いだされる問い	単元を貫く学習課題
生け花 能 水墨画 ひなまつり 和歌 和室 日本風 現代まで	○平安時代は、庶民の生活とかけ離れた文化であるのに対して、室町文化は、庶民もできるような文化なのは何だろうか? (A児が立てた「問い」) ○なぜ、金閣を見ると平安時代のようなきらびやかさを感じるのだろうか。 ○私たちの生活に強く残っているのはなぜだろうか?	◎室町文化はなぜ今でも残っていて、誰にでも親しみやすい文化なのか?

学級全体の「問い」から単元を貫く学習課題「室町文化はなぜ今でも残っていて、誰にでも親しみやすい文化なのか?」を設定した。A児は、この時間の振り返りを右のように記述した。②のように、平安時代の文化の特徴と比較して室町時代の文化の特徴を捉えている。文化の広まり方について、既習知識を活用し、③のように「誰に（貴族）→（庶民）」「どこに（都）→（地方）」と2つの仮説を立てている。このことから、既習知識を活用し、学習課題への仮説を立てたと判断し、A評価とした。

この学習課題に対して、②これまでは都にいる貴族に文化が広まっていたため、親しみやすい文化とは言えなかった。しかし、○○さんの発表のように③庶民にも広まることで、全国の誰にでも広まり、現在まで残っていると思う。

【資料:単元2時間目A児の振り返り】

③ 学習課題解決後に、「新たな問い」を立てる場面

6年生社会科『室町文化と力をつける人々』（3時間目）

本時は「なぜ、金閣は金色できらびやかなのに、銀閣は木造なのか。」を課題にして学習を進めた。予想を立てた後、NHK for school を活用して予想と結果を比較した。

この時間A児は次のように振り返りを記述した。記述④のように仮説を立てる姿を見とることが出来た。「主体的に学習に取り組む態度の高まり」と言える。また、⑤の記述のように、単元を貫く学習課題を意識して、茶の湯や生け花等、現代にまで残る文化であるにも関わらず、幕府の人物しか登場しないことから、「室町文化は生活に取り入れやすい文化なのに、なぜ庶民が出ないのか?」と「新たな問い」を立てた。これは、「深まった問いの追求」にあたりと判断して、A評価とした。

今日は、室町文化の銀閣にはなぜ、銀箔が貼られていないのかを学びました。

私は仮説で、④「争いが起きて義政は銀箔を貼ることができなかったのでは？」と考えました。友達の「お金が無かった」という考えと合体させて、争いが起きたからお金が無かったと最終結論させました。

しかし、文化の始まりの中に「庶民」が出てきませんでした。⑤生活に取り入れやすい文化なのになぜ、出てこなかったのか不思議に思いました。

【資料:単元3時間目A児の振り返り】

6年生社会科『室町文化と力をつける人々』(4・5時間目)

B児の振り返りを分析すると、「新たな問い」を立てることができていないことが分かった。そこで、「単元を貫く課題」を意識して、自分は何の程度解決できているのかを考えるように促した。この結果、4・5時間目は、⑥の記述のように、文化が残る理由に関する「新たな問い」を立てた。この「問い」は、体験した茶の湯を理由に挙げた「深まった問いの追求」にあたりと判断して、A評価とした。

茶の湯体験では、長い年月の間、大切にされてきた作法があることを知った。しかし、明治時代に入り、畳ではなく、⑥**テーブルで茶を立てる文化に形を変えたことで、現代まで続いたのだと考えた。**このように、時代に合わせて形を変えると文化は残るのかと疑問に思いました。

【資料:単元3時間目B児の振り返り】

6年生社会科『室町文化と力をつける人々』(6時間目)

単元終末となる6時間目に単元を貫く学習課題に対する振り返りを書く活動を行った。A児・B児の記述は以下のとおりである。

【A児の振り返り】	思考判断表現の評価(授業に関わる部分)	【B児の振り返り】	思考判断表現の評価(授業に関わる部分)
<p>単元を貫く課題を「室町文化はなぜ今でも残っていて、誰にでも親しみやすい文化なのか?」と設定して、学習を進めました。</p> <p>私は、室町以前の文化に比べて、室町文化が今にも残っているのは、文化に触れる人が増えたからだと分かりました。平安時代は、貴族が中心の文化だったので、限定的な広がりでした。しかし、室町時代は、貴族に加えて武士も文化に加わり、一部の文化では庶民も入ってきました。文化に関わる人が多いほど、文化は残りやすいと考えました。</p>		<p>単元を貫く課題を「室町文化はなぜ今でも残っていて、誰にでも親しみやすい文化なのか?」について学習しました。</p> <p>私は、室町文化は貴族と武士を中心に広めたことで、多くの人に文化が広がったと分かりました。しかし、庶民については未だ広まりが少ないと思います。友達が江戸時代にはさらに多くの人がお茶や生け花をしたと言っていたので、時代とともに文化が広がると考えました。室町時代の後もこの文化が広まり続けたので、今にまで残っているのだと思います。</p>	
<p>また、誰にでも親しみやすいという点では、体験学習から、作法などは同じでも時代に合わせて文化の形が変わったと知りました。時代時代に合わせることで、親しみある文化になると思います。海外の人からも「日本風」と呼ばれる文化なので、地域のお茶検定など、進んで関わり、少しでも多くの人に魅力を伝えたいです。</p>		<p>また、次は私たちが文化を引き継がないと途絶えてしまうと考えました。母が生け花を習い事にできると言っていたので、今後参加してみようと思います。</p>	
主体的に学習に取り組む態度の評価		主体的に学習に取り組む態度の評価	

単元を貫く学習課題を意識しながら、仮説や新たな問いを考えることで、主体的な学習に取り組む態度は高めることが出来たと考える。また、単元終末の両児童の振り返りには、自分の生活と結び付いた新しい事象とつながりが記載されている。単元の学習をとおして、自己の生き方にまで影響が広がったと判断できる。このことから、単元をとおして両児童の「主体的に学習に取り組む態度」はA評価とした。

【評価の変遷】

	1時間目	2時間目	3時間目	4・5時間目	6時間目	単元の評価
A児	A評価	A評価	A評価	A評価	A評価	A評価
B児	B評価	B評価	B評価	A評価	A評価	A評価

4 成果と課題

【成果】評価場面を焦点化することで、教師の妥当性の高い評価が可能になるだけでなく、児童が「次の時間の学習内容を選択する」「自分の現在の学習状況を把握する」等の主体的な学習態度を高めることが可能になった。デジタルポートフォリオの作成により、児童も教師も「蓄積」された学習内容を視覚的に共有することが可能であった。B児童のように「問い」が立てられない等の個別支援も可能となった。両児童の振り返りからは、本研究で意図した以上に学習の個別化（自己のキャリアに影響がある）まで表出された。「評価場面」を焦点化することで、児童の主体的に学習に取り組む態度が高まり、「何ができるようになったか」といった学習評価の充実に繋げることができた。

【課題】本実践では、「どう学ぶか」についての指導が不十分だったと考える。「デジタルノートの活用」など、児童が自らの学習到達度や実態に合わせて、学習方法や学習形態を工夫できるように必要な教師の手立てを追究したい。

5 参考文献

- 『平成29年版小学校学習指導要領ポイント総整理 社会』錦織圭之介 東洋館出版 2017年
- 『見方・考え方(社会科編)』澤井陽介・加藤寿朗 東洋館出版 2019年
- 『宗實直樹の社会科授業のデザイン』東洋館出版 2021年
- 『「主体的に学習に取り組む態度」を育てる社会科授業づくりと評価』米田 豊 明治図書出版株式会社 2021年